



今月の話題

- グローバル研修旅行研修生レポート
- IISEE 国際親善パーティー
- タイ建築家協会来日、加藤氏、藤井氏講演
- 中央アジア・コーカサス研修の実施
- 太平洋地震工学会議
- 元研修生からの手紙

研修 データベース

IISEENET (地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース (修士論文概要)

Bulletin データベース

グローバル研修旅行研修生レポート

(2016年2月3日～6日)

(1) Ms. Lin TANG (中国)



天気の良い午後、新幹線に乗り込み、私たちの4日間の研修旅行が始まりました。

初めの訪問場所は広島—幾多の苦難に耐えてきた都市。原爆のダメージから発展し約70年を経たいま、広島は活気を取り戻し、車や人々が行きかい、過去の荒涼とした場所をここでみる事ができない。

しかしながら、広島平和記念資料館内の原爆ドームの廃墟、消えない炎、悲惨な写真、古い遺品すべてが70

年前に起こったことを語りかけてくる。

巨大な火玉が天空から落下し、そこから1キロ以内にいた人々の命が一瞬にして奪われ、遠方においても自身の皮膚が剥がれ落ちる様を苦痛にあえぎながらただ見るしかない恐怖、広島のいたるところで起った地獄絵が「今すぐ核戦争をやめ、人類に平和を」と叫んでいるようだ。

広島で起こったことは人災であり、一方神戸はまさに自然災害です。

1995年の阪神淡路大震災ではいたるところで、家屋の倒壊、火災、頻繁な余震が起こり、人々の恐怖は増幅するなか、数千人が避難生活を余儀なくされました。

その後、2011年には日本列島沿岸は巨大津波に襲われました。農地が浸水し、家屋が倒壊、人々の命も奪われました。

これらの災害に立ち向かうため、地球科学に携わる者は、何をすべきか？

それはCTBTO条約に参加するために全力をつくすこと、自然災害軽減のために情熱をもって全力をつくすことです。

世界と全ての人類の平和のために、私たちはそれぞれの力で貢献する必要があります。

こうした知識を自国において活用したいと思います。



原爆ドームの前にて

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



(2) Mr. Thakur Prasad KANDEL (ネパール)



私はグローバル地震観測コースの研修生として、広島で歴史的な戦争による残虐行為がもたらしたものの、また阪神淡路大震災が与えた影響について学び、更に厳島神社、清水寺、金閣寺への観光といった印象的な機会を得ました。

以前から広島は日本の他の都市とはかなり違った場所だと思っていました。しかし実際みた広島は緑豊かに発展をとげられており驚きました。

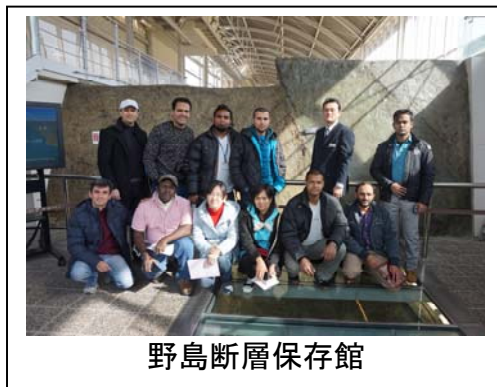
原爆ドームを訪れ、広島平和記念資料館内の犠牲者の遺品、写真、溶けたガラス、焼けた衣服そしてそこにいた人々の影が転写されたコンクリートを見る誰もがこの全世界から核兵器を根絶すべきだと感じ確信するだろう。

誰しも、またどの国家もエゴをもっているが、殺人や破壊による解決は次世代にするべきではありません。

阪神淡路大震災は、最近で最大の被害をもたらしましたが、現在の神戸の町並みをみると、この壊滅的震災が20年ほど前に起きたとは信じがたい。

野島断層保存館は、人と防災未来センター同様に、視覚的、体験的に地震と津波による被害の構造を展示していました。

悲しい出来事にかかわらず、展示場では「天災への心構えと人との絆は、生き延びるために必要なことである」という肯定的な話をしてくれました。



野島断層保存館



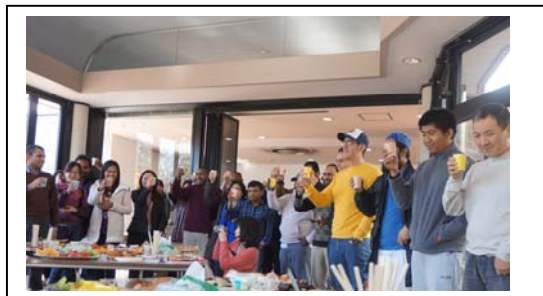
宮島にて

IISEE 国際親善パーティー

国際地震工学センター 管理室長 山下 崇

2016年2月16日に、通年コースとグローバルコースの研修生、及びIISEEスタッフとのフレンドシップパーティーを建築研究所内の食堂で行いました。

お昼休みの短い時間でしたが、坂本理事長、西山理事も出席のもと、なごやかに歓談し食事を楽しみました。





楽しむのは今です。

タイ建築家協会来日、加藤氏、藤井氏講演

国際地震工学センター 管理室長 山下 崇

2月8日(月)に、タイ建築家協会の専門家が来日し、同協会とかねてより親交のある日本建築家協会から建築研究所への依頼により、加藤博人主任研究員と藤井雄士郎主任研究員が講演を行い、タイ建築家協会会長より感謝状をいただきました。

講演内容は以下のとおりです。

- ①加藤博人主任研究員
建築物の地震被害と耐震研究、耐震設計基準について
- ②藤井雄士郎主任研究員
地震と津波 ータイと日本におけるケーススタディーー

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

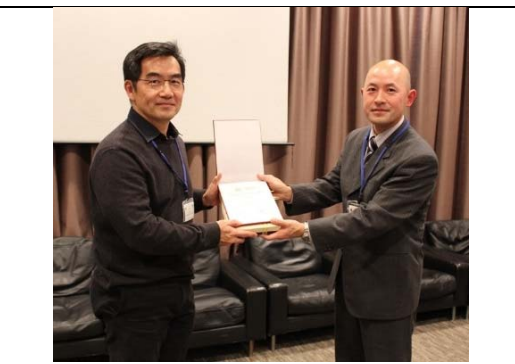
ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp



タイ建築家協会会長より感謝状を受け取る加藤博人主任研究員



タイ建築家協会会長より感謝状を受け取る藤井雄士郎主任研究員

中央アジア・コーカサス研修の実施

国際地震工学センター長 横井 俊明

2月3日の午前、JICAと一般財団法人日本建築センターの協力により、地震防災、耐震設計についての研修を行いました。このコースはアルメニア、アゼルバイジャン、カザフスタン、キルギスの4カ国、中央アジア・コーカサス地方のため特別に用意されたものです。強震観測の最新の知識に基づいた地震工学と地震学について、ロシア語の通訳付きで2時間の講義を行いました。

太平洋地震工学会議

国際地震工学センター 主任研究員 鹿嶋 俊英

太平洋地震工学会議(Pacific Conference on Earthquake Engineering)は、4年に1度の頻度で開催される地震工学分野の国際会議で、10回目を迎える今年にはオーストラリアのシドニーで11月6日から8日の日程で開催されました。建築研究所からは構造研究グループの中川主任研究員と、ISEEの鹿嶋が参加し、それぞれ研究発表を行いました。会議では28か国の参加者から200件以上の研究発表が行われました。2010年のチリの地震、2011年のニュージーランドの地震、東北地方太平洋沖地震に関連する発表が多くみられました。

オーストラリアは地理的に、参加するのにハードルが高いのか、ISEEの卒業生にはほとんど会えませんでした。有意義な時間を過ごすことができました。



会議場風景



発表風景

研修生からの手紙

Alkut AYTUN (トルコ, 1965-1966 地震工学コース)

Katibe Tutuncuoglu AYTUN, (トルコ, 1972-1973 地震学、上級コース)

ご夫婦とも元研修生からご連絡をいただきました。

Alkut さん、Katibe さん、ご連絡ありがとうございます。

Krishna Gopal Bhatia

(インド, 1969-70、地震工学、上級コース)

元研修生の精力的な活動について以下の通りお知らせがありました。

「Foundations for Industrial Machines」というタイトルの本を出版しました。

また彼は毎年インドで Machine Foundation についての国際トレーニングプログラムを開催しています。

詳しくは ISEE ホームページの 国際会議情報のページをご覧ください。

Krishna さん、ご連絡ありがとうございます。



Krishna Gopal Bhatia, インド

バックナンバーは
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>